



Vol.157
令和5年度7月号

今年もバス・バスターズ、活躍しました。

バス・バスターズ20周年を迎えて



産卵床って結構重いねー



定置網にはコイを始め、色々な魚が入っていました。

20年目を迎えたバス・バスターズの活動が5月から6月にかけて実施されました。合計で121名の参加者があり、地元高校の科学部の生徒さんたちが多かった今年のバス・バスターズでした。

今年は、オオクチバスの産卵が多く、延べ56箇所の人工産卵床で、オオクチバスの産卵が確認されました。これは前年の約6倍で、オオクチバスが増えたようにも見える状況です。今後、オオクチバスが増えていくのか、電気ショッカーボートなどの結果と併せて分析をしています。また、希少魚であるゼニタナゴは300個体以上が確認され、昨年の3倍に増加していました。本種の繁殖には二枚貝が必要なため、二枚貝の保護を進め、希少魚の回復を支えていきたいと考えています。



20年間という長い間、支えて頂いたたくさんの方々に感謝申し上げます。この成果を将来世代に伝えていけるよう、引き続き変わらぬご支援をお願い申し上げます。

手作りの「稚魚図鑑」。稚魚すくいには欠かせないアイテムです。



バスの稚魚はどこだ？

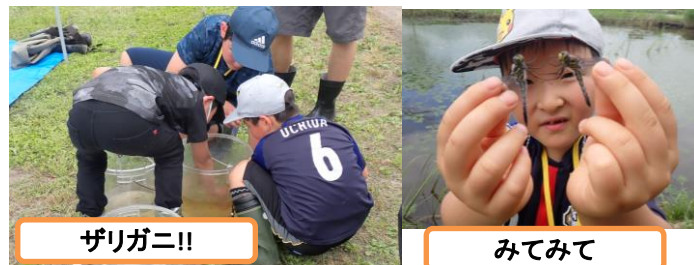
バスターズによる稚魚すくいも効果的！

自然体験講座、全10回がスタート

6月24日(土)に第1回伊豆沼・内沼自然体験講座が開催されました。今年度の自然体験講座は新型コロナウイルス感染症による活動の縮小から、4年ぶりに全10回の開催を予定しています。今回は、第1回となる「水辺の生き物採集と観察会」です。参加された家族は、2組の親子5人で、担当者の説明にいろいろと質問をしながら楽しく観察をしていたようです。タモ網による水生昆虫・魚すくいでは、タイコウチ、ミズカマキリ、モツゴ、フナの稚魚などを捕獲していました。昆虫網によるトンボ獲りでは、キイトトンボ、シオカラトンボなどを捕まえていました。チョウトンボも飛んでいましたが、捕まえられなかったようです。参加した小学生からは「いろんな生き物がいてとても楽しかった」との感想などがありました。



館内での開会式



ザリガニ!!

みてみて

小学校の体験活動が行われました



鶯沢小学校のみなさん

6月15日は、鶯沢小学校の3年生の皆さんが、ウェーダーを履いて沼の中を歩きながら、カゴ罟や定置網に入った魚の観察をしました。捕れた「カムルチー」に生徒たちは驚き、おそるおそる触ったりしていました。



新田小学校のみなさん

6月21日には、新田小学校の3年生の皆さんが来訪され、たも網を使用した昆虫採集では、タイコウチやコオイムシの仲間など、水中に住むカメムシの仲間を観察することができました。

ゼニタナゴやジュズカケハゼなどの希少な魚を通じて、オオクチバスなどの外来種が伊豆沼の生き物に与える影響や、伊豆沼で行っている生き物の保全活動について学びました。

普段の生活ではなかなか出来ない今回の体験。今後、身の回りの生き物や自然に関心を持つきっかけとなってくれることを願っています。

伊豆沼・内沼生き物図鑑 ～タイコウチ～

タイコウチは浅い水辺に住む体長約4cmのカメムシの仲間です。落ち葉のような形で天敵の目をごまかしながら水中でじっとしており、鎌状の前足で目の前を通った獲物（小型の水生昆虫やオタマジャクシ）を捕らえ、針のようにとがった口を突き刺し体液を吸う吸血鬼のような昆虫です。得意技は死んだふりで、捕まえられると足を伸ばしたまま動かなくなります（擬死といいます）。

この擬死の状態は数十分続くこともあるため、分かってはいても、ひょっとして・・・と心配になることもあります。

タイコウチは湿地の減少や水田の基盤整備、農薬の影響などで減少してきました。伊豆沼・内沼に生息しているタイコウチ。将来世代も見る事が出来るよう、守っていききたいと思います。

